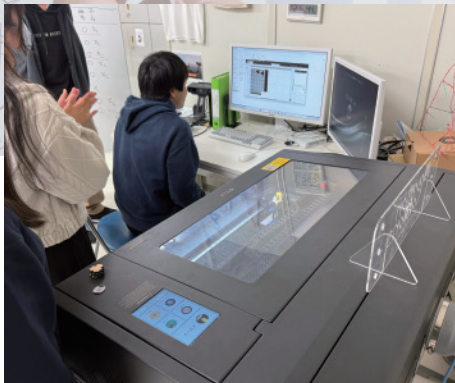


媒体を横断するデザイン教育

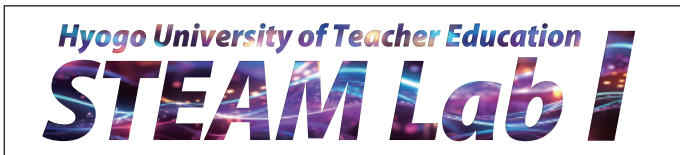
# Cross-Media Design Education

垣内敬造 研究室  
[デザイン]

Digital



左：本学 STEAM Lab に設置された  
レーザー加工機による実習  
右：プロのデザイナーが使用する  
グラフィックツールの実習



本学内「STEAM Lab I, II」のロゴデザイン（垣内制作）



フリーハンドでカッターナイフを用いたタイポグラフィ作品の焼き板制作実習

本専攻では、「Cross-Media Design Education」  
「媒体を横断するデザイン教育」を軸に、アナ  
ログとデジタルを往還するデザイン思考を育成  
します。手を動かし素材に触れる体験を出発点  
に、その発想をデジタルで発展・共有し、表現  
の幅を広げます。制作と講評を通して思考を言  
語化し、媒体にとらわれず本質を捉える力を養  
成。多様なメディアを自在に使い分け、社会と  
つながる実践力を育てます。

Analog



レーザー加工機を使用した 3D モデル制作



## Workshop Practicum in Community Education Settings



### 社会教育施設でのワークショップ実習

「Cross-Media Design Education」は、アナログとデジタルを往還しながら思考と表現を統合することを目指しています。その実践の一つとして、篠山チルドレンズミュージアムにおけるワークショップ実習を位置づけています。本実習では、里山の自然環境や多様な素材、人との関わりの中で、手を動かし身体的に学ぶアナログ側の経験を重視します。学生は子どもたちとの協働的な活動を通して、観察力や即興性、場に応じた判断力を養い、デザインを社会的実践として捉える視点を身につけます。こうした経験は、デジタルによる表現や分析を支える基盤となり、媒体を横断するデザイン思考の深化へとつながります。

丹波篠山市にある篠山チルドレンズミュージアムにおいて、来館者を対象にワークショップの設計から実施までを行う実習

## Portfolio

シンボル・ロゴデザインおよび  
ヴィジュアル・アイデンティティ作品



丹波地域恐竜化石

### フィールドミュージアム

企業ロゴタイプデザイン

株式会社エクセディ

株式会社本間組

内外電機株式会社

和なり創健株式会社

あおい荘

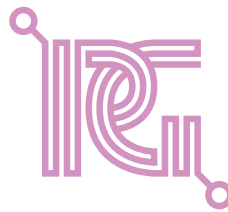
Ailop

EXEDY

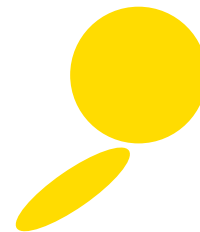
W3



AZ-WORK



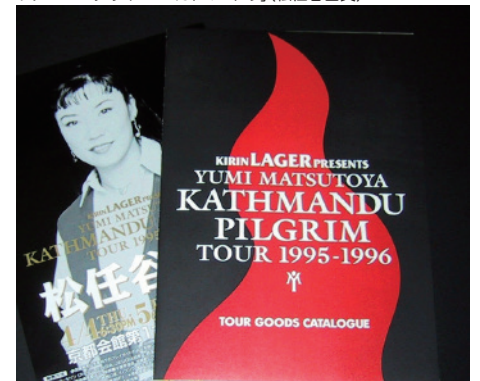
キャラクターデザイン 「おーい! はに丸」(NHK教育テレビ)



ツアーロゴデザイン 「カトマンドウ」(松任谷由美)



HONMA



垣内 敬造 Keizo Kakiuchi

■所属・役職：

兵庫教育大学

先端教職課程カリキュラム開発センター 教授

篠山チルドレンズミュージアム 館長

垣内敬造事務所 アートディレクター

■専門分野：

デザイン史、デザイン理論

グラフィックデザイン

ビジュアル・アイデンティティ

キャラクターデザイン等

■キャリア

大阪芸術大学大学院博士後期課程単位取得退学

1984年 株式会社ほんれいあうと入社、

アークデザインインスティテュート主任デザ

イナーを経て、1990年垣内敬造事務所設立・

Gregory Thomas Associates (LA) と業務提携

2013年 篠山チルドレンズミュージアム館長

2015年 丹波篠山市教育委員(2期8年)

2017年 兵庫教育大学 非常勤講師

2021年 兵庫教育大学 先端教職課程カリキュ

ラム開発センター 教授

兵庫教育大学大学院 学校教育研究科

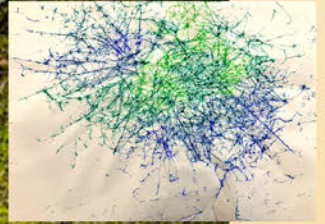
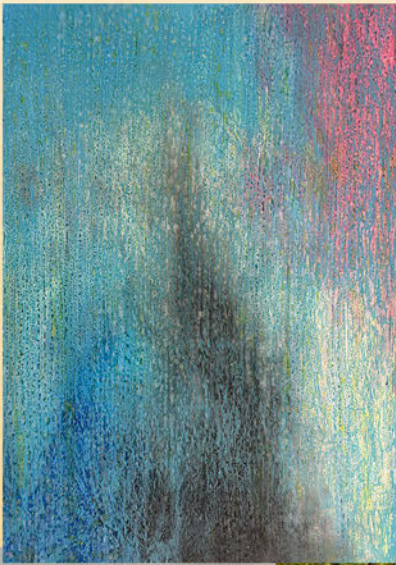
人間発達教育専攻 芸術表現系教育コース（美術）

〔絵画〕 担当：大西 久 Hisashi Onishi

## 授業では

「視る・描く・考える」ことの意義と関係性について深く考察することや  
絵画の現代的な課題を視野に授業テーマのもと、自らの表現意図に応じた  
素材、技法を活用し効果的な表現とは何かを作品の試作を通して考察し、  
鑑賞会も含め多角的な視点を獲得することを目指します。

## 【教育：授業・ゼミ】



※画像は学生作品および鑑賞会風景（実技科目）

# ゼミでは

多様な絵画表現に関する作家、造形要素、教育実践などから学生自身が取り組む課題を設定し文献、資料の調査や実践、分析、考察を通して探求します。

## 《過去の修士論文テーマ例》

- ・ 触覚を喚起する絵画についての一考察—サイ・トゥオンブリの作品を中心に—
- ・ 増殖する空間について
  - ジャン・デュビュッフェの平面によるウルループからの考察—
- ・ ターナーの風景画における抽象性と光の表現に関する考察
- ・ サム・フランシスの作品における独自性を形成する諸要素についての一考察
  - 1950年代から1960年代の作品を中心に—
- ・ 余白の効果について —尾形光琳筆《燕子花図屏風》を中心に—
- ・ 小学校中高学年における写実性ととらわれないための授業要件
  - オイルパステルを用いた授業開発—
- ・ 「ぼかし」の表現効果についての一考察—絵画と写真をを中心に—

## 大西 久〔絵画担当〕 Hisashi Onishi

## 【研究：制作】



### 《作品コメント》

植物の断片をモチーフに油彩にて表現しています。日常の身近にある形象を通して“具象性と抽象性”、“静と動”“確実と不確実”、“存在と不在”制作のなかでそれらの関係性について思い巡らせています。

### 《主な活動歴》

【個展】1991年 ギャラリー白（大阪） [’92,’93,’95,’96,’97,’98,’99,2001] ,1994年 信濃橋画廊（大阪）  
2002年 アートスペース羅針盤（東京）,2003年 ギャラリーGAN（東京） [’05] ,はるひ美術館（愛知） [’08]  
2007年 ギャラリー21+葉（東京）,2009年 コバヤシ画廊（東京） [’10,’12,’13,’15,’16,’18,’20,’22,’24,’25]  
2012年 ギャラリー猫亀屋（大阪） [’16,’18,’20,’22,’24] ,2014年 ギャラリーAO（兵庫） [’15,’16,’17,’18,’19]

【グループ展】1993年 「’93兵庫の美術家」兵庫県立近代美術館（兵庫） [’97]  
1994年 「イメージの鍛錬」ギャラリー白（大阪）,2000年 「第14回現代日本絵画展」宇部市文化会館（山口） [第15回]  
2010年 「ペインタリネスV」ギャラリー白（大阪）,2003年 「第3回夢広場はるひ絵画ビエンナーレ」はるひ美術館（愛知）  
、「現代作家の眼・クロスオーバー10展」岡山県総合文化センター（岡山）,2004年 「VOCA 2004」上野の森美術館（東京）  
2019年 「第2回枕崎国際芸術賞展」枕崎市文化センター南溟館（鹿児島）  
2025年 「FACE2025」SOMPO美術館（東京）

■ Instagram : hisashiworks

■ facebook : Hisahi Onishi





「霧の海の少年とうさぎ」 2026

美術（アート）とは何でしょうか。

その捉え方は多様であり、答えは一つではありません。

私の専門とする「工芸」は、人々の暮らしに寄り添い、人生を豊かにする造形であると考えられています。私はその考え方をさらに広げ、一般には工芸品とされていないものについても、工芸的な視点から研究と表現の対象としています。

日常の中に価値や面白さを見だし、想像を巡らせながら形を生み出し、それを楽しむ。そうした工芸のあり方を、自身の創作活動や子どもたちの教育にどのように活かせるかを、日々探究しています。



「わたしたちの白旗」 2025



「マダムライスカレー」 2024

# 現在取り組んでいる主な研究と実践

## 陶芸アートカード・アートゲームの開発

兵庫陶芸美術館と共同で  
陶芸作品鑑賞ツールとゲーム  
「陶芸アートカード」  
「陶芸アートゲーム」を開発  
それらにちなんだ展覧会を企画。

**夏のごども美術館**  
2026. 6.27 Sat. > 9.6 Sun.

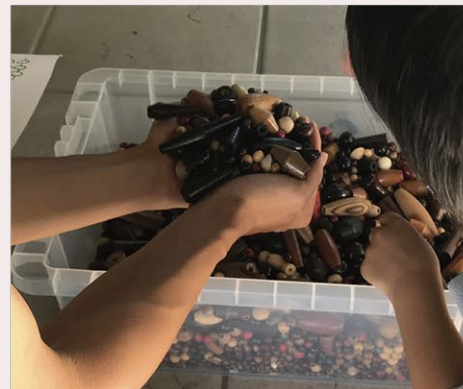
【休 日】 月曜日  
※6月27日(土)7月20日(月)は祝日無し、7月21日(日)は休館日。  
【開館時間】 10:00~17:00  
※入館は開館時間の30分前まで  
【観 覧 料】 一般700円(600円)、大学生600円(400円)、高校生以下無料  
※17歳以上20歳以上の高校生は有料です。  
※70歳以上の高齢者は無料になります。  
※障がいのある方は事前予約が必要です。その分無料は無料になります。  
【主 催】 「ごども美術館」実行委員会 (兵庫県陶芸館、兵庫教育大学)  
【協 賛】 一般財団法人地域創造  
【後 援】 兵庫県、兵庫教育委員会、国立大学法人兵庫教育大学、丹波篠山まちなみアートフェスティバル実行委員会  
【場 所】 兵庫立村岡郷土館協賛会



## ひょうごもんプロジェクト



兵庫県内の産業活動の中で出た端材を収集し、造形素材として学校の授業や美術館などの社会教育施設での活用方法を研究開発。また実践を展開中。



浅海真弓 / あさうみまゆみ (Asaumi Mayumi)

兵庫教育大学芸術系表現教育コース 美術分野：教授 工芸担当

専門：工芸教育 造形教育 陶芸

学歴：愛知教育大学大学院美術教育立体造形 修了

職歴：兵庫陶芸美術館非常勤職員

所属学会：美術科教育学会 大学美術教育学会

主な論文：陶芸学習における「導入プログラム」の開発と実践について—小学校における陶芸学習の研究—

『美術教育学』美術科教育学会 第30号 平成21年

造形素材を大切にする意識を育む授業の構想と実践—伝統的なものづくりを手がかりにして—

『美術教育学研究』大学美術教育学会 第44号 平成24年

粘土造形と描画の発達段階の共通性等についての研究—立体の「クッキー表現」と描画の奥行き意識を手掛かりに—

『美術教育学研究』大学美術教育学会 第49号 平成29年

「フロー体験」を活かした美術教育の可能性について：産業活動の中で出た端材や余剰材を用いた造形活動を手がかりに

『美術教育学研究』大学美術教育学会 第55号 令和5年

主な作品発表：神戸ビエンナーレ 2007、2013

丹波篠山まちなみアートフェスティバル 2008~ 毎回

六甲ミーツアート・芸術散歩 2020

「あさうみまゆみ展」篠山チルドレンズミュージアム 2026





▲ 《時》



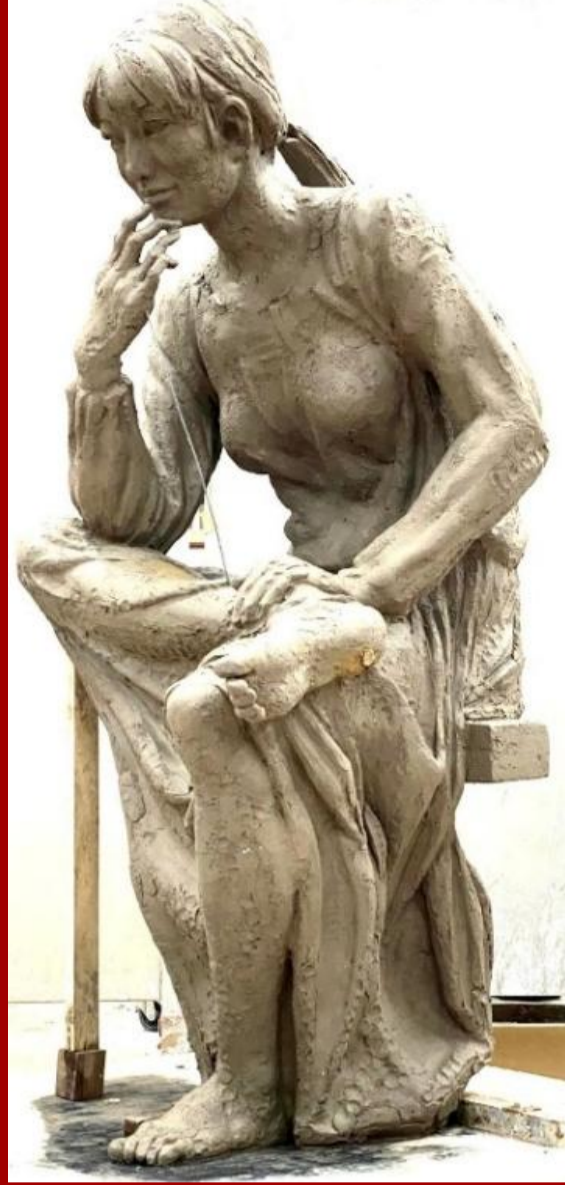
▲ 《早春》



▲ 《樹》



▲ 《月の影》



▲ 《墓》



▲ 板書 日本の教育事情(美術科/図画工作科)、前芝の授業の殆どは即興!



▲ 《caldera IV》



▲ 団子の組み立て  
すべてはここから始まった  
造形も人生も研究も教育も!  
▼ 《男の背中》



▲ 学術論文の一部

▼ 中央の6弦ベースは前芝のオリジナルデザイン



▲ 《祈り-Mahatma Gandhiの行進-》

▼ デザイン・障害児教育への応用例





▲ 《一筋の光》



▲ 《Mahatma Gandhiの頭部》



## 国立大学法人 兵庫教育大学

学校教育学部  
大学院修士課程  
連合大学院博士課程

彫塑／美術解剖学／美術科教育学  
様々な学術領域から美術を学ぶ

## 前芝武史 研究室



▲ 公開制作 (於: 国指定重要文化財・大阪市中心公会堂)

自らにとって世界一の高機動力を誇る6弦ベースとともに ▲  
《Takeshi Maeshiba 6 Strings Presentation Bass》

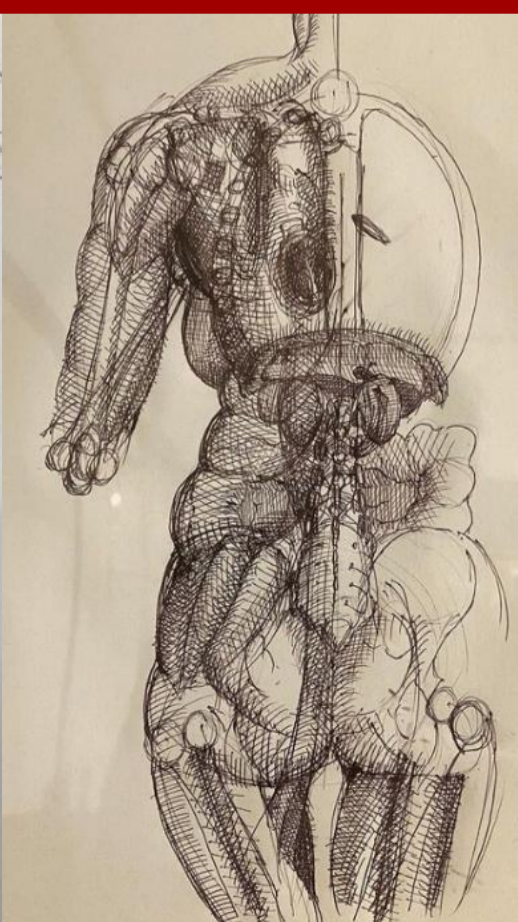
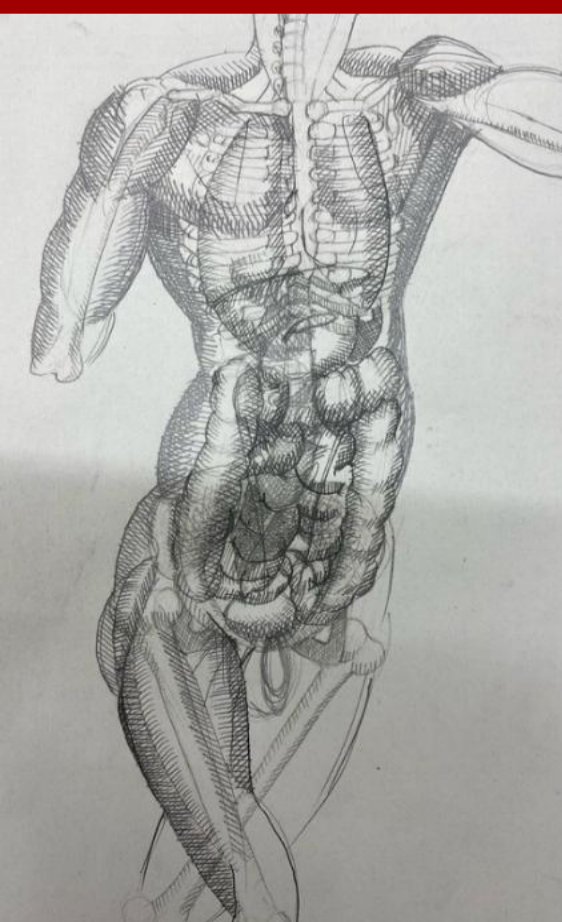


▲ 《手首周辺骨格素描》



▲ 彫塑制作で愛用の数々の道具

▼ 《記憶による美術解剖学的素描》



▲ 1年の指導で初心者を日展へ！  
ゼミ生の日展入選・学長表彰教  
驚異の11名！（2026年 現在）



▲ 前芝武史の世界展 公開制作

### 美術は才能？

いや、そこにはロジカルな側面がはっきりと存在する。  
美術は総合的な科学！  
楽しく、面白く、学際的、複合的に学び  
博識で高度な思考と技能を有する指導者を育成したい。  
芸術や学問の熱狂と、冷めやらぬ興奮を知る  
本物の指導者を育てたい。

▼ 美術は学際領域、教育、哲学、工学、美学、医学、心理学…様々な学術領域の複合体であり、全ての学術の応用の場 (愛知医科大学医学部・美術解剖学特別講義)



# 前芝武史 PROFILE 2026

## I 専門領域

彫塑（人体塑造による具象彫刻の制作）

彫塑造形論（造形原理）

美術解剖学（学際領域・複合領域、構造・構成）

美術教育学（中等・高等教育、素描・彫塑、インクルーシブ教育）

## II 現在

日展 第3科彫刻 会員（審査員2回 歴任）

日本彫刻会 運営委員（審査員2回、研究誌査読／編集委員 歴任）

白日会彫刻部 会員（会務委員、審査員、関西支部副支部長 歴任）

美術解剖学会（東京藝術大学）幹事

美術科教育学会 会員（学会誌査読委員等 歴任）

大学美術教育学会 会員（総務局理事、地区全国理事、他※、歴任）

（※ 教科内容学検討委員 彫塑代表、学会誌査読／編集委員）

アカデミック造形研究プロジェクト（美術解剖学研究団体）理事長

国立大学法人 兵庫教育大学 大学院研究科 教授（～現在）

※ 博士課程 マル合（学位審査資格・主任指導教員資格）

京都芸術大学 非常勤講師（美術解剖学・特講）併任（'23～）

京都芸術大学 非常勤講師（彫塑実技・特講）併任（'23～）

広島市立大学 非常勤講師（美術解剖学Ⅰ、Ⅱ）併任（'25～）

大阪芸術大学 客員教授（美術解剖学）併任（'26～）

## III 学歴

'97 滋賀大学教育学部小学校教員養成課程美術専修卒業

'00 筑波大学大学院修士課程芸術研究科（彫塑分野）修了  
修士（芸術学）

'03 筑波大学大学院博士課程芸術学研究科（芸術教育学分野）  
単位取得退学

## IV 職歴

'03 筑波大学附属桐が丘養護学校 高等部美術科 教諭

'05 兵庫教育大学実技教育研究指導センター 助教授

'06 兵庫教育大学大学院学校教育研究科 助教授、翌年 准教授

'08 兵庫教育大学大学院連合博士課程 マル合取得

'20～現在 兵庫教育大学大学院学校教育研究科 教授

'20～'22 奈良教育大学 非常勤講師（学部/大学院 彫塑）

'23～現在 京都芸術大学 非常勤講師（美術解剖学特講、彫塑特講）

'25～現在 広島市立大学 非常勤講師（美術解剖学Ⅰ、Ⅱ）

'26～現在 大阪芸術大学 客員教授（美術解剖学）

## V 受賞、選抜、講演等、主たる活動と成果

'97 第73回白日展 一般佳作賞受賞

'98 第28回日彫展 奨励賞受賞

'00 第76回白日展 白日賞（I氏奨励賞）受賞

'04 第34回日彫展 努力賞受賞

'06 美術科教育学会 第3回『美術教育学』賞奨励賞（※年度最高賞）

'09 第39回日彫展 優秀賞受賞

'10 大学美術教育学会 教科内容学検討委員（※彫塑部門代表）

'11 第43回 日展（第3科彫刻）特選受賞

'12 第88回白日会 彫刻部 特別陳列選抜（国立新美術館）

'12 国立大学法人兵庫教育大学 第1回 優秀教員表彰  
（※大学教員表彰規定2条（1）本学発展に極めて大きな貢献）

'12 第44回 日展（第3科彫刻）無鑑査出品

'13 第89回白日展 吉田賞受賞（※ 白日会彫刻部最高賞）

'13 第45回 日展（第3科彫刻）特選受賞

'14 第46回 日展（第3科彫刻）無鑑査出品 翌年、準会員推挙

'15 公募団体ベストセレクション美術2015選抜（東京都美術館）

'17 日展110年記念『日本の美 現代の日展作家』に選抜

'18, '20 日本彫刻会俊英作家展選抜（東京・日本橋三越）

'19, '25 日展（第3科彫刻）審査員に選抜

'20 日展（第3科彫刻）会員に就任

'21 日展 CMプロモーション動画出演作家に選抜

'21 日展 シンポジウム・パネリストに選抜

'22 アカデミック造形研究プロジェクト代表となる（'23～理事長）

'22 第28回 美術解剖学会 一般公演（東京藝術大学）

'22 アカデミック造形研究プロジェクト展 vol.1（大阪市中央公会堂）  
公開制作《劇変の瞬間》

'23 神戸新聞掲載（アカデミック造形研究プロジェクト）

'23 アカデミック造形研究プロジェクト展 vol.2（大阪市中央公会堂）  
公開制作《0からの構築過程》

'23 アカデミック造形研究プロジェクト vol.3  
美術科教育学会・120分セッション講演（神戸大学）  
「美術解剖学・具象・素描

—アカデミックな内容がもたらす学際的イノベーション—」

'23 前芝武史の世界と美術解剖学展（国立大学法人・兵庫教育大学）  
—芸術と学術／学際性をテーマとした展覧会—

神戸新聞 掲載（6/1日 朝刊）、加東市CATV連続放送

'23 アカデミック造形研究プロジェクト vol.4（兵庫教育大学）

公開制作《劇変の瞬間Ⅱ—造形の基軸—》

'23 アカデミック造形研究プロジェクト展 vol.5（大阪市中央公会堂）  
プレ公開制作《彫刻家の頭脳—レントゲン・CT・MRI—》

公開制作《造形の原点》

'23 第29回 美術解剖学会 一般公演（東京藝術大学）

'23 美術解剖学会（東京藝術大学）幹事に推挙

'23 A Path For The Future Exhibition 作品2点が選抜出品  
（Viridian Gallery, New York, USA）（※ 国際的活動）

'23 愛知医科大学医学部 解剖学研究室 特別講演

'24 アカデミック造形研究プロジェクト展 vol.6（大阪市中央公会堂）  
公開制作《図解彫塑》

'24 兵庫教育大学 Open Campus 模擬授業（※全学教員代表選出）  
夏：《これが兵庫教育大学・美術の授業！—デッサンと美術—》  
秋：《最先端を標榜する兵庫教育大の彫塑領域の授業》

'25 兵庫教育大学優秀教員表彰（2回目、全学初）  
（※大学教員表彰規定2条（1及び2号）社会的表彰等、多大な名誉）

'25 アカデミック造形研究プロジェクト展 vol.7（大阪市中央公会堂）  
公開授業《感じる・わかる・考える》

公開制作《メタモルフォーゼ（女性像→男性像への変容）》

'25 日展 大学別新入選者数、兵教大（前芝研究室）が全国1位となる  
（※ 筑波大と同率1位）

'26 神戸新聞・文化面掲載 兵庫教育大・前芝研究室（4/9朝刊）

'26 第55回日彫展 特別賞（会員賞）受賞

'26 ダイキン工業 CG Channel「CG Channel Week」出演

《構造と構成—人体を美しい造形に—》

'26 第32回美術解剖学会大会 シンポジストに選抜（東京芸術大学）

## VI 講演、学位審査、査読等

東京芸術大学（美術解剖学会 '22、'23 一般講演、'26 シンポジスト）

筑波大学（彫塑展特別招聘講師）湯島聖堂《旧・昌平坂学問所》

神戸大学（大学院博士課程 博士学位学外審査員）

愛知医科大学（医学部解剖学研究室 特別講義招待講師）

広島大学（大学院障害科学事業講演 講師）

兵庫教育大学（連合大学院博士課程 学位審査員）

大阪大谷大学（教育学会セミナー公演 講師）

公益社団法人 日展 第3科彫刻（審査員、シンポジウム・パネリスト）

公益社団法人 日本彫刻会

（審査員、研究誌査読／編集委員、視覚障害者鑑賞会解説委員）

白日会彫刻部（審査員）

北彫展（公開制作作家、作品解説委員）東京都北区・北とぴあ

日展・大阪展（作品解説委員、彫刻研究会 講師、ワークショップ講師）

白日会関西支部（彫塑造形研修会 講師）

美術科教育学会（学会誌査読委員）

（'23 兵庫大会実行委員、兵庫大会120分セッション講演）

大学美術教育学会

（学会誌査読委員・学会誌編集委員・教科内容学検討委員

彫塑部門代表・地区全国理事、総務局理事などを歴任）

芸術学研究 筑波大学人間総合科学研究科発行（投稿論文査読委員）

Art Library（公社）日本彫刻会発行（学会誌査読委員 研究誌編集委員）

美術解剖学会（'24, '25 学会誌査読委員）

嵯峨御流（研修会講師 大阪・リーガロイヤルホテル鳳凰の間）

その他、市美術展などの審査員多数。

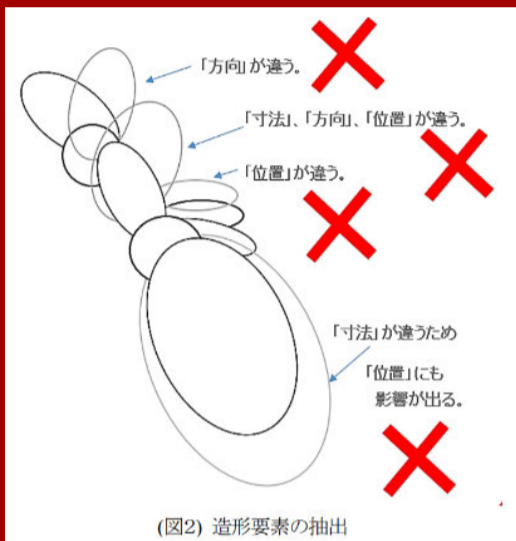
## VII 担当授業

- ◆大学院修士課程
  - 彫塑実技研究
  - 彫塑教育論
  - ゼミ(課題研究)
- ◆学校教育学部
  - 彫刻実技
  - 初等図画工作
  - インクルーシブ教育基礎論
  - ゼミ(課題研究)
- ◆大学院教職修士課程
  - 初等図画工作科教育法
  - 初等図画工作教材研究と授業づくり(昼間コース、夜間コース)
  - 論作文執筆法
  - 障害のある児童への指導・支援方法(昼間コース、夜間コース)
  - ゼミ(課題研究)
- ◆大学院博士課程
  - 美術と表現Ⅳ(彫塑)
  - ゼミ(課題研究)
- ◆奈良教育大学(非常勤)'20~'22
  - 彫刻Ⅲ、彫刻Ⅳ
  - 木彫、素材研究
- ◆京都芸術大学(非常勤)'24~
  - 美術解剖学特講、特講彫塑特講
- ◆広島市立大学(非常勤)'24~
  - 美術解剖学Ⅰ、Ⅱ
- ◆京都芸術大学(非常勤)'24~
  - 美術解剖学、特講彫塑特講
- ◆大阪芸術大学(客員教授)'26~
  - 美術解剖学(前期・後期)



▲ 公開授業(大学院修士課程)

### ▼ 造形要素の抽出



(図2) 造形要素の抽出

の社会学を地理学、時間軸上の社会学を歴史学と呼びますし、スポーツは限定的な時間・空間で、どうエネルギーを効率的に動かすかという問題であり、また時間・空間・エネルギーは、物理学そのものであると同時に、この学問は数学の助力を必要とします。この3つの語を基礎に、私は学問の本質を考えます。

これに加え、複合領域・学際領域である解剖学の知見や、特別支援学校での知見や、医学部での講義経験を織り交ぜ、多角的・多面的な教育を行い、博識で高い思考力や実技力を有する本物の指導者を養成したいと思っています。

特に彫塑教育では、初心者でも半年の教育を受けただけで、全国規模の公募展で日本一の歴史を有する日展(日本美術展覧会)に入選するなど、驚異的な大快挙を成す学生も続出しています。小中高・特別支援学校の教員は勿論のこと、後に日展で特選を受賞し、大学教員や彫刻家となった者、博士の学位取得者も多数輩出しています。

かなり融通も利き、自由度も高く、卒業・修了後のアフターゼミも充実した研究室ですので、どのような教育を受けたいか、将来どうなりたいか、まずはお気軽にご相談ください。

### ▼ 感性の発生序列(前芝説)…感性は、どのように積みあがるのか

筑波大附属 橋が丘養護学校 高等部での概ねの目標	感性の発生 (前芝武史)	内容概略	年齢	思考発達段階 (ピアジェ)	道徳性発達理論 (コールバーグ) ※年齢区分は存在せず	基本的欲求(マズロー) ※年齢区分は存在せず	造形活動を媒介にした 感性発達メカニズムの 大枠(橋沢啓一氏)
	全人的	全知全能の段階。西洋思想でいうところの神に近い段階。宗教的性情を強く帯びてくる仮想的段階に近づく。					美的活動と独立 造形的活動の独立
	豊かな情緒	実に多様な多面的な知識、理解、柔軟な思考、技能を持ち、感性が諸科学と結合し複雑に体系化されていると思われる段階。	15~18	形式的操作 (12歳以降)	普遍的な倫理的原理 への志向段階 社会契約的道徳法への 志向段階	自己実現の欲求	美的感性と 芸術的表現活動の分化
国公立大学進学、 専門学校進学、教員等	情緒	情緒に感性・理性が強く結合し、多様な知識、理解、思考、技能が諸科学と結合していく段階。	11~12	具体的操作 (7~12歳)	法と秩序の維持への 志向段階	承認の欲求	感性(生活的価値意識) と造形表現活動の独立
社会的自立や支援を 受けながらの社会活動	情緒	基本感情が増進していく段階。所謂、知恵が、感性・理性として高次化しつつ、感性に結合していく段階。	6~7	前操作期 (2~7歳)	対人的同調あるいは 「良い子」への志向段階	所属・愛情の欲求	感性(生活的価値意識) と造形表現活動の 分化(発生)
ADL 生活身辺自立	感情	所謂、善悪家として、ヒトの基本感情が出現したと思われる段階。感性、理性の基となる知恵の存在が非常に明確になる。	0~2	感覚的操作 期 (0~2歳)	道具主義的相対主義 への志向段階 罰と服従への志向段階	安全の欲求 生理的欲求	生理的・感覚的感性と 未分化な表現活動
	情動	恐怖・怒り、落ち着きの有無など不快反応を示す段階。					
	認知	空間認知・時間認知・力の認知など動物的機能の殆どが備わる段階。自分の強さ弱さ等の分別がある程度つく段階。					
GOL	知覚	神経細胞・神経細胞間や中枢神経により、熱や光、音、味覚、湿気・乾燥などの刺激に対する反応がある段階。					
	感応	クラゲの刺胞細胞がタンパク質など特定の物質に接触した際起こるような極めて原始的な反応の段階。					
	化学反応	この段階は、原始的な神経細胞さえ持たない動物やウイルス、バクテリアなど非生物の生理的・活動的段階。					

前芝の考え  
感性の発生序列

## VIII 卒業・修了生

彫刻家、大学教員  
 博士学位取得(芸術学)筑波大学、(学術)神戸大学など  
 筑波大学附属教諭、高等学校教諭、小学校教諭、中学校教諭  
 特別支援学校教諭など  
 進学(筑波大学大学院博士課程、神戸大学大学院博士課程等)

## IX 研究の特色

研究の基軸は「団子の組み立て」で、キーワードは「並べる・積む・組む」です。小学校学習指導要領の低学年にも「並べたり、積んだりする行為を通して…」と掲載されていますが、私の研究は、そこから展望できる彫塑造形の学術的側面について探求しています。この形は、どの様な形と、どの様な形の組み立てで出来ているのか…まるで積木或いは建築を考える様な感じです。

その結果、造形には原理もあればロジカルな思考が存在する事が解りました。美術は天才と呼ばれる人間や、一部の才能があると言われる人たちだけのものでしょうか?断じて違います。私は筑波大学附属の教諭時代、手の不自由な美術を嫌いになってしまった高校生を相手に、本格的な素描や具象彫刻を楽しんで貰う授業を考案・実践しました(美術科教育学会『美術教育学』賞奨励賞受賞)。誰しにも出来る実感を、そう思います。

この様に私の研究は「団子の組み立て」と「並べる・積む・組む」が軸となっていますが、これは形態構成学とも解釈出来ます。構造を見て構成するという考えは、実に全ての学術領域に通底する本質論であり、私はこの考えを時にデザインや、解剖学等に応用する他、実に多くの学術領域に波及させ、それぞれの学問領域の本質の明確化に繋げたいと考えています。

然し何れともあれ私の美術教育は、現代の美術科教育と明らかに一線を画するもので、デッサンの面白さを存分に味わってもらう所に大きな特色があります。やり方・作り方を教えるのではなく「ものの見方、考え方」を教える…即ち**Maeshiba Method of Modeling Mass**。ここから芸術や様々な学術の色々な面白さを見つめ直すことができれば、と思っています。

## X 前芝研究室の教育 プロも初心者も大歓迎!

私の研究は、3次元空間に塊を構成することです。美術や建築といった造形芸術は、空間芸術とも呼ばれますが、時間芸術には音楽(時間軸上の音の構成)や文学(時間軸上の言葉やセンテンスの構成)等があります。時間・空間・エネルギー、この考えを様々な広げると大変面白く、空間上

## XI 公式サイト・SNS

- ◆ 前芝武史 公式HP  
(彫塑・素描・デザイン・美術解剖学・美術教育学)  
Takeshi Maeshiba's Works & Studies  
<https://www.maeshiba-sculpture.com/>



- ◆ アカデミック造形研究プロジェクト Official Site  
(美術解剖学研究団体)  
<https://www.academic-art-project.com/>



- ◆ Instagram  
前芝武史 彫塑と美術解剖学



- ◆ Wikipedia 前芝武史



- ◆ 国立大学法人 兵庫教育大学 美術分野



お問い合わせはこちらへ(▽)

〒673-1494 兵庫県加東市下久米942-1芸術棟124  
前芝武史 研究室  
E-mail: maeshiba@hyogo-u.ac.jp

※肖像彫刻の受注・販売も承ります。ご相談下さい。





## 喜多村明里 研究室 (美学美術史学／「美術史・美術理論」)

中学校・高校美術科教諭の免許取得に欠かせない「美術史・美術理論」に関する授業と研究指導の担当です。

人文科学としての美術史学や美学には、ことばの力を活かして、さまざまな美術作例の謎をめぐる伴う手がかりや思想を調べて批判検討し、新たな知見や解釈を探るといった面白さがあります。鑑賞の誘導やギャラリートーク、美術作品の批評解説に必要な「ことばの力」を高めながら、芸術・美術をめぐる思索と理解・教養を深めることにより、質の高い教育研究実践を目指してください！

喜多村明里(きたむらあかり)

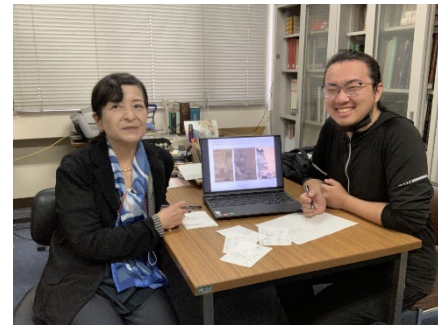
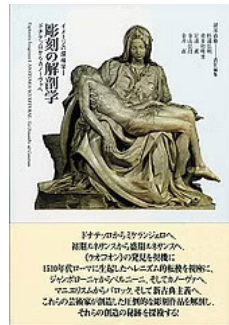
専門:美学美術史学(イタリア美術文化史)

学会:大学美術教育学会／美術史学会／美学会／イタリア学会／表象文化論学会

略歴:1986年 京都大学文学部美学美術史学専攻卒業／1988年 同大学院文学研究科修士課程修了／1989-91年 イタリア留学(パドヴァ大学およびフィレンツェ大学文学部)／1992年 京都大学大学院文学研究科美学美術史学専攻博士後期課程満期退学／1992年 京都市美術館学芸課学芸員／1997年 兵庫教育大学助教授／2011年 同・教授(現職～博士論文主任指導資格認定)

### 主な論文・著述:

- 喜多村明里「フラ・アンジェリコ作サン・マルコ修道院ドルミトリオのフレスコ装飾——信仰と絵画表現をめぐる一考察」、『美学185』、美学会、第47巻4号、平成8年(1996)、pp. 37-48.
- 喜多村明里「人文主義と女性論の系譜：モデラータ・フォンテ著『女性の価値』(ヴェネツィア、1600年)を通じて」、『イタリア学会誌』、イタリア学会、第56号、平成18年(2006)、pp. 193-216.
- 喜多村明里「欲情のエロティカ：〈君主の愛〉と〈神の愛〉——パラッツォ・デル・テ「クビドとプシュケの間」再考」、共著『イタリア美術叢書Ⅲ 憧憬のアルストピア』、ありな書房、令和2年(2020)、pp. 9-72, 281-287. などなど。



### 過去のゼミ指導学生の論文タイトル: 学生個人の興味関心を論文に! マンツーマンの個人指導で支援します!

- 1) 美術鑑賞教育における美術教科書の考察——鑑賞教材としての教科書の活用と問題点——
- 2) 視覚造形芸術にみる〈影〉に関する諸問題——〈影〉をめぐる文化史・美術史学的研究の視点から——
- 3) 文字をめぐる芸術と教育——中国・日本の書の文化と美的教育——
- 4) 図像学及びイコノロジーを踏まえたイメージ・リテラシー教育の諸問題—ポッティチェリ作《春》の研究史を通じて—



美術史学の基本的な分析スキルを指導しつつ、視覚造形作例・視覚表象を内容に含む論文研究であれば、西洋美術であれ日本美術であれ、鑑賞教育や美術教育の実践研究であれ、学生さんの気持ちを汲みながら共に奮闘する日々です。出来ることから懸命にがんばれば、うまくいきます!

リクエストがあってメンバーが揃えば、美術分野の先生方と学生有志でイタリア旅行に出かけ、イタリアの「レッジョ=エミリア・アプローチ」と廃材・剰余材を利用する教育の現場を見る、フィレンツェやボローニャ、マントヴァやモデナの街を訪ねて美術館巡りをする、なんてこともしています。

近況雑記1: 秋には南イタリアのカラブリア大学にて15-16世紀イタリアの女性美術家に関する研究発表をする予定です。彫刻家プロペルツィア・デ・ロッシ、画家ソフォニズバ・アンギッソラ、ラヴィニア・フォンターナなど、日本ではほとんど知られていませんが、ルネサンス期の女性美術家の発掘と再評価や、女性と芸術の関係に関する研究は、ヨーロッパでは今や当たり前の重要領域となっています。同時代文献をまとめた過去の研究論文について、突然、カラブリア大学の文学史の教授から電子メールで「翻訳して読みました、研究交流に来ませんか?」とのお誘いを受けてびっくり、光栄でした。当時の女性がどのようにして美術制作に取り組んだのか、教育史の視点も欠かせませんし、同時代の社会制度や教育、女性に対する考え方、15-16世紀のジェンダーに関する理解と批判検討が必要で、この方面の研究を少しずつ再開したところです。



ラヴィニア・フォンターナ《書斎の自画像》1579年／銅板に油彩・径16cm  
フィレンツェ、ウフィツィ美術館

## 近況雑記2:あなたの「眼」と「心」でアートを知り、楽しむには？

●むずかしく考えないで欲しい。まずは**名品・名作**のたくいを見て、その価値や評価に納得できるかどうかを**自分の眼と心**で素直に確かめることが大切だ。感動や驚き、深く心打たれる経験があれば、その作品はあなたの眼と心に刻まれる。その積み重ねが、美や芸術に関する**「感性」や「教養」**の糧(かて)となっていく。●ただし、**二流三流の「まがいもの」やコピー作品**ばかり見てはいけない。まず、高い評価を得ている**「本物」を見る**ようにしよう。そうしないと「眼が腐る」ともいうし、本当にすぐれた作品とそうでないものを見分けるには、まず名高い作品を多く、よく見ておくほうが良い。

●だが、名品名作は数多くあって、当然のことながら、**「私にはピンとこない、わからない」ものも多い**。「今の時代、または私の気分には合わない！」という場合もある。つきつめたところ、何を見ても、**「好きか嫌いか、なぜ、どこが良いのか…？」**と考えて、**自身の眼と心とアタマ**を素直に働かせるという**「美的判断」のゲーム**を繰り返すことが大切になる。展覧会の解説文や歴史情報も少しはかじり読みするかもしれない。そういった積み重ねにより、**あなたなりのセンスと教養**が培われ、また、「美的判断」ゲームの繰り返しも徐々に深みを増して、より面白くなっていく。●さまざまなものを沢山、よく見て**自分なりに考えること**が大切だ。経験を重ねると、素早く全体や部分を見て、特徴を見抜くようになる。

●**笑い話**になるが、あるとき、私は「漢籍の教養に乏しいし、古代中国史の気楽なお勉強に」と考えて、**三国時代の魏(ぎ)**の国の名将、**司馬懿(しば・い/Sima Yi/後3世紀前半)**を主人公とする**中国の娯楽歴史ドラマ**を観ていた。司馬懿は3代にわたる皇帝に仕え、敵対する**軍師・諸葛亮孔明(しょかつりょう・こうめい)**が率いる蜀(しょく)軍の侵攻を退けて国を守り、晩年には魏王朝の実権を掌握する。こうした史実と比較しながら、ドラマにおける解釈や演出、架空の人物を見きわめ、戦陣で諸葛亮が**「泣いて馬謖を斬る」**という故事の場面や、また、室内調度や衣装などの美術、カメラワークの苦労を楽しむのだ。

●その歴史ドラマは「歴史をめぐる想像と空想」の世界だったが、ひとつ、びっくりするような発見もした。なんと、司馬懿の長男、**司馬師(しば・し/Sima Yi)**の**居室壁面の絵画**が、日本美術の至宝、**長谷川等伯の《松林図屏風》**部分(16世紀末)だったのである。

●時空を超えた荒唐無稽な**「美術考証」**でも平気、という中国歴史ドラマは少なくない。古代が舞台の場合はとくに、建築や調度品に関する確かな資料が少なく、ドラマ・シーンの見栄えをよくするためにも、宋・明代の風俗を混在させてしまいがちだ。細部を見れば、衣装の布地や模様、酒器や皿、壺、花瓶、家具や庭の造りに至るまで**「怪しいモノ」**だらけで、それを探ること自体が楽しくもある。

●**「歴史的な美術考証」**にはほど遠くて、見るに値しないケースもあるが、美術スタッフの健闘または悪戦苦闘ぶりが伝わる点で、中国の歴史ドラマや映画は妙に面白い！のである。上述のドラマの場合、司馬懿の長男は優秀で容姿に威風があった、と伝える歴史書

の記述にしたがい、**室内調度もかつよく演出した**、ということかもしれない。むろん、**古代3世紀の魏の邸宅に16世紀末日本美術の名品を投入！**という驚きの処理は、時空を超えて逆行する、いわば**超絶のアナクロニズム(時代錯誤)**であって、冷静に見れば虚妄な演出でしかない。しかしながら、**長谷川等伯の水墨の凄み**のおかげで、その室内は奇妙とはいえ、それなりにおさまりがついていた。

●ともあれ、中国歴史ドラマの美術スタッフのなかに、日本美術をよく見て学んでいて、それを仕事に活かし、批判や失笑を恐れずに**大胆な「視覚的演出」**を試みる人がいたのである。●娯楽歴史ドラマの質や出来ばえを左右する条件のひとつは、**美術史に関する教養、またはアートに関して眼と心の力をそなえる美術スタッフ**の存在であろう。等伯《松林図》を中国・魏王朝時代のドラマに挿入した人は、きっと若い美術スタッフで、その後もさらに面白く不思議な仕事をなさっているのでは…と期待してしまった。

●何か目新しいものを見るとき、**眼と心の力**が試される。日常生活のなかにも、**アート**が潜んでいる。子どもでも大人でも、素直に見て自分なりに感じ取り、自身で考えることが大切で、そのように育てていくこと・育つことが重要だ…とあらためて思ったことです。



長谷川等伯《松林図屏風》右隻、東京国立博物館